

卷頭言

第28回体液代謝管理研究会年次学術集会を2013年1月26日（土）に東京都千代田区平河町の都市センターホテルにて開催させていただきました。侵襲下の体液と代謝に関する内容を検討するユニークな会に参画できることが楽しみであり、また、本研究会の第12回集会を前任の小川龍先生が担当されたことから、深い縁を感じるところです。

侵襲時の体液・代謝の適切な指標は本研究会の永遠のテーマと考えていましたので、集会のテーマを「体液・代謝モニタリングを再考する」としました。シンポジウムⅠで、周術期における体液代謝管理の現状と展望を、それぞれ分野別のエキスパートの先生方で討論いただき、シンポジウムⅡで体液管理のモニタリングの最先端を討論いただきました。活発な討論とともに、現状の把握と研究の方向性が十分に示されたと思います。さらに、特別講演においてアミノ酸の役割を宇都宮大学の吉澤先生に、トレーサーを用いたカイネティクスについて藤田保健衛生大学の櫻井先生にご講演いただき、最新の代謝モニタリングの方向性についても示していただき、意図したテーマを十分勉強できました。

本学術集会には、多数の名誉会員の先生が参加され、最初の演題から討論を盛り上げていただき、現状までの問題点や新たな視点を的確に示され、また最後まで途切れることのない討論に加わって頂きましたことに、心より感謝申し上げます。また、一般演題として8題の若手研究者による発表を頂きましたが、いずれもユニークな話題を取り上げた研究であり、この分野の研究がしっかりと継続されて行われていることを心強く感じました。

学術集会に参加いただいた多くの先生方、名誉会員の先生方、事務局長の宮尾秀樹先生に深謝いたしますとともに、次回より新事務局長となる飯島毅彦先生のもとで、本研究会がますます発展することを祈念いたします。

第29回体液・代謝管理研究会

会長 坂本 篤裕

(日本医科大学大学院 疼痛制御麻酔科学分野)